

令和8年度長浜市総合教育会議議事要点録

I 日 時 令和8年7月10日(金曜日)14時10分～16時00分

II 場 所 西浅井小学校2階 ICT教室

III 出席者 【構成員】

浅見 宣義 市長	織田 恭淳 教育長	
前田 康一 委員	兼子 貴絵 委員	前川 加奈子 委員
押谷 喜美子 委員	上田 祐樹 委員	

【事務局】 (教育委員会事務局)

宮川教育部長、為永教育委員会事務局次長、
北村教育委員会事務局次長、服部教育総務課長、
長屋教育改革推進課長、細江教育指導課長、
隼瀬学校給食課長、藤田幼児課長、成田西浅井小学校長、
石田教育総務課長代理、廣部教育改革推進課係長、
中岡教育改革推進課推進員、藤田教育改革推進課推進員、
服部教育改革推進課主査

(未来創造部)

和田本未来創造部長、米田未来創造部次長、
手崎政策デザイン課長、山崎政策デザイン課係長、
異政策デザイン課主事

IV 内 容

1 開会

2 市長挨拶

挨拶 本日の意見交換のテーマは「長浜市学校園の適正規模・適正配置について」である。

本市においては令和7年に行った国勢調査の速報値によると、人口108,085人で、令和2年からの人口減少が県内で最も大きく、5,551人減という結果がでた。多くの学校や園でも小規模化で保育・教育活動における運営上の課題が生じ、全市的な視点で計画的・段階的に学校園の適正な規模・配置を見直す必要がある。

その中でも本市では、小中義務教育学校において、協働的な学びや集団での学習の機会を確保することをめざす。その一環として今年度より、伊香具小学校と木之本小学校が統合、また塩津小学校と永原小学校が統合して新たに、ここ、西浅井小学校が開校した。

新しい環境での教育活動に日々ご尽力されている中、本会議のために快く会場をご提供いただいた成田校長をはじめ、教職員の皆様に深く感謝申しあげる。

本日はこの後、校内の見学を予定しているので、子どもたちがどのような雰囲気の中で日々を過ごしているのか、しっかりと見届けたい。

今回の会議では、この「適正規模・適正配置」の課題や、今後の対応・体制はどうあるべきかについて、皆様と有意義な意見交換をよろしくお願いします。

3 意見交換

テーマ:「長浜市学校園の適正規模・適正配置について」

行政説明 ・策定の背景・目的と本市がめざす保育・教育
(教育改革推進課) ・本市の学校園を取り巻く現状と今後の見通し
・長浜市における学校園の適正規模・適正配置
・学校園の再編・統合に向けた今後の進め方

西浅井小学校 現地視察

意見交換 説明や現地視察を踏まえて、長浜市学校園の適正規模・適正配置についてどうあるべきかなど意見交換

事務局 4月の開校から3ヶ月が経過し、大きな混乱なく子どもたちは打ち解けている。環境変化に伴う心のケアには、タブレットでの健康観察や面談を通じて組織的に対応している。中学校との校舎共有による施設調整等の課題は小中の教職員が連携して柔軟に乗り越えている。懸念されていた通学も地域や保護者の見守りにより順調であり、「統合してよかった」「活気が出た」と好意的な評価を得ている。

事務局 統合後の子どもたちの活気ある姿から、統合してよかったと実感している。学校における最高の教育環境は「人間関係」であり、多様な集団の中で切磋琢磨することこそが学校本来の機能である。今回の統合は、子どもたちに活気と本来のエネルギーをもたらし、能力を高め合える良い環境を生み出した。一方で、子どものために「母校を閉じる」という苦渋の決断を下した保護者や地域の英断に対し、深い敬意と感謝を忘れてはならない。

委員 人数少ないなどの良さはあるが、人が増えると多様な意見に接する機会も多くなる。デメリットとしては環境の変化が挙げられ、実際に診療所の診察でも、環境の変化による影響を感じることもある。また、教員側も統合による変化で少なからずストレスを抱えることがあるのではないかな。

また、開校してから少し情報が少ないように感じる。細かい情報の共有を希望する保護者もいる。

委 員 小学校と中学校を1つの校舎にするということに、子どもたちがワクワク感をもてるか心配していたが、上手に工夫しながら設備を共有し、校舎も綺麗で安心した。

これまで小規模校にも関わっていたが、知り尽くした人間関係の中では他の意見に触れる機会がなく、成長のための新たな刺激を得にくいことが小さな学校の課題だと感じていた。

現在の西浅井小学校の活気ある環境が、クラス替えできない規模でどうなるかが今後の課題である。今回の成功事例や、保護者へのアンケート結果などは、今後他の地域で学校再編を検討する際の「先進事例」として、積極的に情報発信・共有していくべきである。

教 育 長 新しい環境の影響で学校に通うことが難しくなってしまった子はいるか。

事 務 局 統合前からの悩みを継続して抱えている子や、新たに行き渋りが出た子も一部いるが、個別で丁寧に対応している。

委 員 今回の統合の目的が教育水準の向上のためだと聞いていたが根底には児童数の減少がある。初めから適正配置という論点で入り、副次的な作用として「教育の質」も情報提供してもらえるとよかったのではないだろうか。

教 育 長 確かに様々な論点がある。市としては、まずは教育的な論点から入っていきたいという考えがあった。

委 員 適正配置という論点でデメリットを出さないほうが不自然。初めにデメリットを提示する方が地域における合意形成は進めやすい。

教 育 長 統合後の各方面へのアンケートはしているか。

事 務 局 現在実施中である。木之本小・伊香具小のアンケートも同時に行っている。最初は消極的だった保護者も授業参観後は「本来のあるべき姿だと感じ、統合してよかった」という意見に変わってきている。パブリックコメントも肯定的な意見が多い。

教 育 長 木之本小学校伝統『木のっこハーモニー』が統合前とは良い意味で大きく変わったと聞いた。

事 務 局 アンケートの中でも、「旧伊香具小学校の愛唱歌が『木のっこハーモニー』で全校合唱されて感動した」との声があった。統合した学校の文化を互いに取り入れて一緒に活動していることが、地域からも喜ばれている。

教 育 長 西浅井小学校ではどのような取組を考えているか。地域の人々の反応はどうか。

事 務 局 学習のフィールドが西浅井町全域に広がったため、環境、水、漁業、産業など総合的な学習をしたい。地域の人々の対応は丁寧で、交流を喜んでくれている。

- 委 員 今回の統合で活気ある学校になったと思う。しかし、今後児童数はさらに減少してしまう見込みである。クラス替えできる人数をめざしているが、それすら厳しいのが現状であり、どの地域でも同じことが起こっている。長浜市全体で数校に集約するといった大きな見通しも考えていく必要があるのではないか。
- 教 育 長 西浅井小学校の登下校は通学バスで何分くらいかかっているか。
- 事 務 局 バスの乗車時間は 30 分かかっていない。大浦までは直行で約 10 分、一番遠いとされる菅浦までは更に 15 分かかる。
- 委 員 広域で合併した場合、分校をつくり低学年を教える案も、人数をある程度確保する上では必要である。
- 委 員 短いスパンで何度も統合を繰り返すのは地域の負担になるため、思い切った統合をした方が良い。基本的に「市の学校数・配置」が決まらないと、部活動の地域移行なども上手く機能しない。長浜市全体でどのくらいの小学校・中学校が必要なのか。
- 事 務 局 「中学校区内1小学校の配置」を基本方針案で示している。それでもクラス替えできる規模を下回る地域があるのも事実だが、通学の負担や施設の改修を考えるとすぐに広域的な統合に進むのは難しい。現時点では幸い、一定の児童数が確保できている状況である。
- 委 員 特認校を希望する地域がある場合はどうするのか。
- 事 務 局 一定条件のもと、学区外からの通学を認めることも有効な選択肢だが、まずは「中学校区内1小学校の配置」の適正配置を優先して考えている。先日、他市の特認校を視察したが大規模校の適応が難しい子が制度を利用して通うケースもあり、本来の在籍数を上回る児童が通っていた。
- 委 員 特認校の通学はどのようにしているのか。
- 事 務 局 コミュニティバスでその定期券は市が負担している。
- 市 長 将来的な大きな統合は確かに意見の1つとしてあるが、身近なところで統合していかないと地域の人がついてこない。そういう意味で今回の統合は大きな一歩前進だった。アンケート結果の公表はあるか。
- 事 務 局 地域には公表予定だが、全市的には今のところ予定していない。
- 市 長 次の統合を考えるにあたり、今回のアンケートの結果は有効である。情報提供の方法をぜひ考えてほしい。
- 統合によりフィールドが広がったことは子どもたちにとって幸せなことである。旧永原と旧塩津、両方の歴史が統合されて誇りになるような、都会では得られない教育環境があることに自信を持ち、前向きに考えていきたい。

委 員 大前提として、「この町で子どもを育てたい」という人を増やさないと、子どもは減っていく一方である。これがもっと減ると将来的に長浜市内に小学校は1つになる。根本的なまちづくりの課題を解決しないと、ずっと統合を繰り返すことになる。総合教育会議で抜本的な課題解決について議論を進めていきたい。「人が住みやすい長浜をつくること」と「学校の適正規模化」は両輪で進める必要がある。教育委員会と市長部局が連携して、根本的な課題を議論して解決していかないといけない。

市 長 日本の人口は歴史上4番目の減少となり、人口減少は地域だけでなく日本全体の問題である。そうした厳しい現実の中でも、小さくても住みやすい魅力のある町をめざし、前向きな統合はやっていかざるを得ないと考える。

委 員 他市町と比べても、長浜市は連携をとりながら子どもを見ていて魅力的だが情報発信力が弱い。地域ごとの特色を前面に出せば移住者も増えるのではないか。

教 育 長 忌憚のない意見に感謝する。新しい環境の中で子どもたちのエネルギーが引き出されていることを大変嬉しく思う。

子どもの持っている力、エネルギー、興味・関心をどういう環境で育てていけば、自分の「好き」を仕事にして、日本を救い、世界へ飛び出せる人材になるのか。これは永遠の課題かもしれない。今ある計画をもとにして、これからずっと考えていきたい。私自身学ばせてもらった。

4 その他

事 務 局 今年度の総合教育会議は必要に応じて開催。

5 閉会

以上